

松本昌成(公明党)

今後の行財政改革の推進は

**問** 今後の行財政改革の推進に対する市の考えは。

**答** 集中改革プランの見直しは考えていないが、今年度中に新財政健全化改革チャレンジ計画を策定していきたい。今後数年間は定年退職者の増加により職員数は減少していくが、市民サービスを低下させないように行財政改革の継続的な推進と将来に向けた財政健全化に積極的に取り組んでいかなければならない。

救急医療情報キットの導入は

**問** 緊急事態発生時に本人情報が容易に入手でき、迅速な救急医療に役立つ。キットに対する市の認識は。

**答** 高齢者など社会的弱者の安全、安心を確保するためにもキットの導入は非常に有用である。普及のための周知方法や配布方法

救急医療情報キット(東京都大田区の例)



など関係機関と協議の上、導入に向けて検討していく。

伊藤勝美(公明党)

エピペンに対する取り組みは

**問** 緊急用アドレナリン自己注射「エピペン」に対する市の取り組みは。

**答** 救急救命士はエピペンの指導をする立場にないため、保育士を対象に勉強会という形で訓練用注射器を見ながら説明書に記載してある事項を紹介するにとどめた。教職員からの要望があれば、教育委員会と

の連携のもと、エピペンの情報交換など紹介をしていきたい。

オストメイト対応型トイレの整備予定は

**問** 市役所庁舎内に対応型トイレの整備が必要と思うが、今後の市の対応は。

**答** 市内の膀胱・直腸機能障害による身障者手帳所持者は107人で、人数的に増加傾向にある。整備の必要性は認識しており、本館1階中央の身障者トイレを対応型トイレに改修する方向で検討していきたい。



オストメイト対応型トイレ

鎌田篤司(市政クラブ)

蒲郡市第四次総合計画について

**問** 効率的な行政運営を行うにあたり、広域連携の推進は必要不可欠である。審議の中では広域連携をどのように考えていたのか。

**答** 効率的で質の高い行政サービスを提供するため、広域行政の一層の推進や周辺市町との協調関係を充実させていくことが議論され、重点プログラムに位置づけられる方向で調整している。重点プログラムには設楽ダムの問題や観光振興など盛り込んでいきたい。

漁業・水産業の人材育成事業の継続は

**問** ファイッシャーマン21計画の人材育成事業はやると軌道に乗ってきたところで終わってしまう。事業の継続に対する市の考えは。

**答** 同じような事業の取り組みが継続的に国等であれば、市として商工会議

形原漁港



荘田博己(未来の会)

蒲郡市としての愛知県への要望について

**問** 市の優先順位の高い課題と要望の手法を伺う。

**答** 優先順位はつけていない。ハード事業は県市意見交換会を通じ、国道247号中央バイパス、マイナス11m岸壁整備に関して重要性を特に述べている。ソフト事業は市長会を通じて、東三河地域の医療体制整備、公共交通の支援、小中学校の耐震化等の財源確保を要望している。